

アジア: 世界経済の回復を牽引

アヌープ・シン

私は今週、最新の「アジア太平洋地域経済見通し (REO)」を上海で発表することになっており、中国に来ています。中国のエネルギーと力強い成長には目を見張るばかりですが、この国に戻ってくる度にこの思いは強くなります。

中国がアジアで重要な位置を占めていることは言うまでもありません。そしてそのアジアは今や世界経済の回復を牽引しています。実際、世界がここ半世紀で最も深刻だった景気後退局面から抜け出そうとしているなか、回復を先導しているのはアジアです。先進国・地域では、今のところ失業や弱い家計・銀行のバランスシートにより成長が滞っていますが、新興市場国・地域、特にアジアでは力強く回復しています。

最新の REO では、2010 年及び 2011 年のアジアの成長率をそれぞれ 7%、アジア新興国に関しては両年共 8.7%を見込んでおり、アジアは今年そして来年の世界経済の成長見込みの 4.2%、4.3%に大きく貢献することになります。

アジアは、中国、インドをはじめとする国々の力強い回復に後押しされ、当面世界経済の回復を先導すると思われれます。アメリカをはじめ世界レベルで在庫補充が進んでおり、2010 年後半にかけアジアの生産と輸出を押し上げることになるでしょう。高い資産価値により消費が後押しされ、稼働率の改善により消費者マインドや投資が支えられるなど、アジアの内需も強力なモメンタムとなっています。

プラスの波及効果

中国の成長率は既に第 1 四半期で 11.9%に達しており、2010 年全体では平均 10%になると予測しています。この力強い成長は、消費やインフラ投資の拡大を図る政府の取り組みと堅調な民需の相乗効果を反映したものです。中国の力強い回復は、アジア地域—特に一次産品や資本財の輸出国や業者—にプラスの波及効果をもたらしています。

経済が回復軌道に乗り出したことを受け、与信の質を保護する観点から、中国政府は与信の急速な伸びの抑制に乗り出しました（これは、私の考えでは正しい判断です）。

中国からアジア全体に目を向けると、アジア地域のパフォーマンスに驚くべき特徴を複数見て取ることができます。

アジアの世界経済の成長への貢献が他の地域を上回っており、近年で初めてアジアが世界経済の回復をリードしています。トレンドベースではこれは既に経験済みで

すが、世界的景気後退局面からの回復途上で起こっているのです。もうひとつの過去のパターンからの脱却の例として、アジアの回復の推進力は輸出のみではないという点が挙げられます。もちろん輸出も貢献していますが、内需も原動力になっているのです。しかも、政府による刺激策のみならず、民間需要にもいえることなのです。

そして最後に、資本の流入が増加していることも特徴です。これまでのケースでは、アジアへの資本流入の回復は鈍いものでした。しかし今回は、先進国の流動性が非常に高いこと、そしてアジアの明るい成長見通しや耐性に富む政策枠組みなどを背景に急増しているのです。

インフレのリスク

しかし同時に、アジアは依然として短・中期的なリスクや政策課題を抱えています。仮に大規模な資本流入が続いた場合、インフレや、資産価格の過熱とその後の急後退サイクル、マクロ経済の変動といったリスクが上昇します。

また中期的には多くのアジア諸国にとり、内需を強めることで過度の輸出依存型経済からの転換を図ることが課題だといえるでしょう。

民需を育成するうえでは、既に数カ国が実施している、金融部門と社会保障システムの強化と発展（これにより、万が一に備えた貯蓄へのモチベーションが減るでしょう）に向けた政策パッケージが不可欠でしょう。強い通貨を目指した施策もこのパッケージに組み込まれるべきですが、これにより家計の収入と消費が中期的に上昇すると期待できます。

また近いうちに、上記のあるいは他の課題について書きたいと思います。

出典：[iMFdirect blog](#).